

【委員意見等一覧】

令和3年度第2回半田市地域福祉計画推進委員会（書面）

1. 令和4年度事業予定について

No.	委員意見等（概要）	事務局コメント
①	（「現状と課題」説明欄で）R3にコロナで開催中止とした事業があったが、開催できる方策を検討するべき。	今後の推進委員会や各事業については、WEB会議や感染対策の徹底により、可能な限り開催する方向で取り組んでいきます。 ただし、第6波のように感染者が激増し、感染リスクが高いと判断される場合は中止もやむを得ないと考えます。
②	コロナ禍でも「やらない」ではなく、やれるかたちで進めてほしい。	
③	コロナ禍だが、何かできることを共に取り組んでいきたい。	
④	コロナによる活動制限を（IT社会に対応する）機会として（高齢者等に）ITに慣れてもらう工夫ができるとよい。	
⑤	ふくし井戸端会議は、どのようなかたちで地域の方に参加案内しているか？	以前は主に回覧板を利用し周知等してきましたが、一方で参加者の固定化等の課題がありました。そのため、開催方法の見直しをするなか、最近では公民館・サロン等の人の集まる場所に出向いて開催することが多く、開催方法・場所によっては事前に案内しています。
⑥	地域の福祉活動拠点と福祉人材の確保を目指し、長期的なロードマップが必要。	地域の福祉活動拠点と福祉人材の確保は、それぞれ第2次半田市地域福祉計画の推進施策として定めている事項であり、計画に沿って着実に進めていきます。
⑦	板山地区で認知症について勉強できる機会を作ってほしい。	これまでも、他地区で認知症をテーマとした勉強会型のふくし井戸端会議等を行っていますので、板山地区でも実施できるよう検討します。
⑧	（各事業所で行う）ふくし相談窓口について、施設利用者以外の方（近所の方など）へのPRをどうするか？また、事業所職員向けの研修（動画・対面）があるとよい。	R4年度、車両側面に貼付する「ふくし相談窓口」PR用マグネットシートを各事業所にお配りする予定であり、PRに活用いただければと考えています。また、事業所職員向け研修についても、R4年度中に開催する予定です。

## 2. ふくし課題プロジェクトについて

No.	委員意見等（概要）	事務局コメント
①	（R 3 プロジェクト[居住支援] 関係） 民間賃貸住宅入居受入アンケートの必要性・目的・今後の活用方法は？	プロジェクトの目的は居住支援ガイドブックの作成ですが、アンケートは賃貸住宅事業者の実態を把握したいとのプロジェクトメンバーの意見をきっかけに実施したものです。アンケート結果はガイドブック作成時の参考として活用し、QA 方式の解説というかたちでフィードバックを行います。
②	（同）アンケート結果のフィードバックを行ってほしい。	
③	（同）居住支援ガイドブックの対象は賃貸住宅事業者か支援者か？また、ガイドブックはどこで入手できるか。	ガイドブックは事業者を対象とするものですが、支援者にも活用いただけたらと考えています。 また、ガイドブックは市内賃貸事業者に配付するほか、市ホームページからダウンロードできるようにする予定です。
④	（同）アンケートに協力いただいた事業者は要支援者への支援も協力いただけそうか？	協力いただける事業者ばかりではないかもしれませんが、ガイドブックの配付を通じて協力を呼び掛けます。
⑤	（R 3 プロジェクト[個別避難計画]関係）モデル実施したのを見たい。	計画ひな型（記入例）を別紙のとおり添付しますのでご確認ください。
⑥	（同）災害時避難行動要支援者対策として未だ最善策を見出せていないと思う。	災害の種類・規模、要支援者の家族状況・身体状況、地域の取組状況等が千差万別であること、また、大規模災害においては、支援者も含め全ての市民が被災することが想定されるため、要支援者対策を講じることは容易ではありません。今後もふくし課題プロジェクトなどにより、各課題について協議を進め、一つひとつ着実に取り組んでいきます。
⑦	R 3 プロジェクトはプロセスに意味があったと思うが、（検討結果や今後の取組を）どのように浸透させるか。職員等の負担のない方法で継続を考えてほしい。	R 3 プロジェクトのうち、個別避難計画は地域福祉課が所管し、R 4 から本格実施を進めます。 居住支援は各支援機関がそれぞれ支援に取り組むとともに、関係機関が定期的に情報交換等できる体制を構築したいと考えています。
⑧	（R 4 プロジェクト）指定避難所福祉スペースについては、災害時に現場対応す	そのような視点を持って協議を進めます。

<p>る地域の方が困らないような取り決め等が作れるとよい。</p>	
-----------------------------------	--

### 3. その他

No.	委員意見等（概要）	事務局コメント
①	<p>（うつ病等で失職した）40歳代の方の復職に向けた養成所などがあるとよい。</p>	<p>愛知障害者職業センター（052-218-2380）において、うつ病等により休職している方へのリワーク支援（主治医等との連携による職場復帰支援）を行っているほか、半田市生活援護課においても、就労に向けた段階的訓練（日常生活自立・社会生活自立・就労自立）を行う就労準備支援事業を実施しています。</p>
②	<p>ふくし共育は、時世に合ったものを行うべき。例えば、家族等から精神的ダメージを受ける子どもが増えているので、カウンセラー等の話を聴く機会を作っては？</p>	<p>今年度、半田市社協において新たなふくし共育のプログラム開発を進め、人によって異なる「苦手」と「得意」の掛け合わせによる「支えあい」や、子どもたちが「助けて」と言い易くなる社会の実現を目指したものとしました。</p> <p>また、「LGBTQ」や「若年層の精神障がい」を扱うなど内容充実を図りました。</p>